

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	49.8	54	54.4	51	49.7
	本年度結果 偏差値平均	52.1	47.1	48.1	53.5	47.1	52.2
算数	前年度結果 偏差値平均	/	47.6	51.6	53.2	50.8	51.1
	本年度結果 偏差値平均	51.7	48.7	48.3	51.7	48.5	49.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	52.8	47.9	50.5
	本年度結果 偏差値平均	/	/	47.4	51.4	47.7	48.9
全体	前年度結果 偏差値平均	/	48.7	52.8	53.5	49.9	52.2
	本年度結果 偏差値平均	51.9	47.9	47.9	52.2	47.7	49.7

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	62 (97)	62 (97)
本年度結果 (対県比)	65 (94)	59 (92)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語科では、考えや意見をまとめ伝え合うことが44.5%で全国平均と3.3%差があった。3年生以上で、文や文章を正しく書く、目的に応じて書くことが43.9%で全国平均と2.6%差があった。</p> <p>●算数科では、3年生・4年生では、「長さ・かさ・重さ」が56.5%で全国平均と7.4%差があった。4年生・5年生の角が51.8%で全国平均と11.1%差があった。図形領域は、1学年以外全国平均に達していない。</p> <p>●理科では、3学期末に学習する単元、「磁石の性質(4年生)39.4%」、「水の温度による変化(5年生)56.2%」、「振り子の動きとそのきまり75.7%」が全国平均に達していなかったり、全国平均からの差が大きかったりした。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科では、情報と情報の関係付けの仕方や語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができること(53.4%、全国平均より-8.6%)、漢字を文の中で正しく使うこと(2問平均56%、全国平均より-6.7%)、中心となる語や文を見つけて要約することができること(84.5%、全国平均より-5.5%)に課題があった。</p> <p>●算数科では、(2位数)÷(1位数)の筆算の商の意味を考えることができる(32.8%、全国平均より-14.8%)、二次元表から条件に合う数を読み取る(50%、全国平均より-14.6%)、百分率で表された割合について理解する(39.7%、全国平均より-6.3%)に課題があった。</p>
--	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>①学期末テストで80点以上、CDTでは、全国平均以上の数値にする。</p> <p>①ドリルタイムの内容の充実を図る。</p> <p>②児童が学習課題を設定したり、思いを伝え合ったりして授業を作り上げ、自分の変容に気づけるようにする。</p> <p>③全教諭が、本郷小学校版「ファシリテート」を意識した授業に取り組み、対話・グループ協議等、練り合いの場を設定し、授業力を向上させる。</p> <p>③全職員で指導案検討を行い、授業研究では、担当児童を決め、細かく見取り、単元構想力や児童の実態の把握する力を高める。</p>	<p>①全国学力・学習状況調査問題を全教職員で解き、どのような力が求められるのか共通認識を図り、授業改善につなげる。</p> <p>①活用問題を作成し、2学期以降のドリルタイムで取り組み、型式などに慣れさせる。</p> <p>①ドリルタイムで、学びの基盤となる認知能力の育成に関する取り組みを取り入れ、クロスワードや熟語作りゲームなど取り入れたりして、児童が既知知識を活用し楽しみながら思考する方法を工夫する。</p> <p>②児童に学習に関するアンケートを行い、実態把握を行い、授業改善に活かす。</p> <p>②家庭学習で、学習前と学習後の音読を動画で撮影し、自分の変容を客観的に捉えられるようにする。</p> <p>③研究授業ごとに参観した教員が全ての児童のつづきやノート等を見取り、児童の姿を根拠にファシリテーションの在り方について協議会で検討し、授業改善に活かす。</p>	<p>①夏季休業に作成、ドリルタイムに実施</p> <p>②7月・12月</p> <p>③研究授業ごと</p>	<p>・学期末テスト80点以上の児童の割合80%以上</p> <p>1学期:国語科、76% 算数科、77.4%</p> <p>2学期:国語科、83.4% 算数科、70.4%</p> <p>・CDTで全国平均以上</p> <p>・授業が楽しいと感じている児童の割合90%以上 1学期:90.7% 2学期:90.2%</p> <p>・学ぶことで自分が変容していると感じている児童の割合80%以上 1学期:92.8% 2学期:91.5%</p> <p>・「ファシリテート」を意識して授業を行っていた参観者の肯定的割合を90%以上にする。</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>①全学級において、基本的な学習ルールや環境整備などを揃える。</p> <p>②一人一人の役割を明確にし、仲間や集団の中での居場所を確認できる活動を設定する。</p> <p>③校内で、支援児童の情報を共有し、活動の交流をすることで児童の居場所づくりと自己肯定感を上げる。</p>	<p>①学期初めにルール等を確認する。</p> <p>②Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案や交流する。</p> <p>②生徒指導の三機能を生かした授業づくりや、校内での研究授業を通して交流・振り返りを行う。</p> <p>③校内での生徒指導委員会や特別支援委員会など、定期的な話し合いの場で常時児童の実態と取組について交流する。</p> <p>③学校生活において学期ごとに児童へのアンケートを行い、実態把握と取組について交流する。</p>	<p>①学期初め(4月・8月・1月)</p> <p>②年間通して</p> <p>③常時(それぞれ月1回以上有)</p> <p>③学期末(7月・12月・2月)</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上 (全学級で1回目以上)</p> <p>・Q-U2回目の三次支援の数値0%を目指す</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】

○語句の理解を深めるために熟語作りゲームや読書喚起を行うため担任シャッフル読み聞かせ、自然と教え合いを行いコミュニケーション能力を高める折り紙など、ドリルタイムの充実に取り組んだ。その結果、88%の児童がドリルタイムが楽しんだと答え、認知脳力のみならず、モチベーションなどの非認知能力も育む工夫を行った。

●集団思考の場面で児童同士で深めるところまで全学級はいけなかったため、今後は、振り返りのイメージのもと、どのような発問や切り返しを行うのか指導案に明記したり、単元を貫く問いを追究するよう単元構想を行ったりと、ゴールの姿を明確にし、ファシリテート力を高めていく。

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	50	53	50	50	54	51.4
算数	目標値 偏差値平均	50	52	50	50	52	50.8
理科	目標値 偏差値平均	/	/	50	50	52	50.6
全体	目標値 偏差値平均	50	52.5	50	50	52.6	50.9

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	69 (100)	64 (100)